

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第74回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

口から始める健康づくり

中道 哲 先生

大阪ガス株式会社健康開発センター嘱託医
大阪歯科大学講師(非常勤)

平成25年11月21日(木) 17:30~18:30

大会議室 (C棟 1階)

近年、8020達成者の増加が報告され喜ばしいことである。しかし、歯の欠損を中心に顎口腔系機能障害を有する国民がまだまだ多くいる。そこには、治療ばかりが先行し再発防止や発病予防が不十分だという問題がありそうだ。また、口腔領域と全身の健康との関連が多く報告されるようになった。臨床でも、口からアプローチすることによって改善する傷病も少なくない。

元来、疾病は病因(外来因子や代謝異常など)に対して体の抵抗力が負けたときに発症する。したがって、直接的な原因を取り除くだけでなく体の抵抗力を低下させないようにすることも忘れてはならない。そのためには、哺乳類の特徴である釘植や顎関節、口、体の特性を正しく理解することが必要である。

顎口腔系臓器の特徴に、(1)横からの力に弱い、(2)乾燥に弱い、(3)常在菌の存在、がある。歯の喪失は歯周靭帯の断裂によって生じるが、加齢後の反復的な線維の引っ張りが危険である。そこで、歯の動揺やその誘因を制御することが有効であるから、「歯に作用する側方力」をもっと危険視するべきである。口腔乾燥は高齢者において大きな問題になってきているが、唾液循環が不十分だと蝕をはじめ多様なトラブルを招く。

疾病の原因除去としては「気をつけよう、寝相、片噛み、口呼吸」、体の抵抗力低下防止としては「努めよう、早寝・早起き、骨休め」という保健指導が成り立ち実践しているので紹介解説させていただきます。

連絡先: 第74回モデレーター 笹野 高嗣 (口腔診断学分野)